

### 大阪国際がんセンターで診療を受けられた皆様へ

当院では、以下の臨床研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

下記の概要についてご確認いただき、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、試料・情報を用いませので、以下の「問合せ先」までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

下記の研究は、大阪国際がんセンターの倫理審査委員会（以下、「倫理審査委員会」と略します）で審査され、当院総長の許可を得て行います。

① 研究課題名	術前治療後膵癌に対する術後経腸間膜静脈化学療法（IMVC）の臨床的有用性の検討			
② 研究期間	研究機関の長の許可日から 2026年12月31日まで			
③ 対象患者	下記期間に膵癌に対して術前治療を受けた上に膵切除術を施行した患者さん			
④ 対象期間	2015年4月1日から2023年12月31日			
⑤ 研究機関の名称	大阪国際がんセンター			
⑥ 研究責任者	氏名	久保維彦	所属	大阪国際がんセンター消化器外科
⑦ 使用する試料・情報等	<p>本研究では以下の診療情報を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 術後肝転移再発の有無および発生時期</li> <li>② 術後生存期間および無再発生存期間</li> <li>③ 年齢、性別などの患者背景</li> <li>④ 血液検査データ(CA19-9 など)</li> <li>⑤ 術前治療内容(化学療法・放射線治療など)</li> <li>⑥ 手術内容(手術時間、出血量など)</li> <li>⑦ 病理学的所見</li> <li>⑧ 術後補助療法の内容</li> <li>⑨ IMVC 施行の有無および関連有害事象</li> </ul>			
⑧ 研究の概要	<p>膵癌は手術後も再発率が高く、特に肝転移は最も頻度の高い再発形式であり予後に大きく影響します。</p> <p>当院では肝転移再発の抑制を目的として、術中に腸間膜静脈へカテーテルを留置し術直後から抗癌剤を投与する「経腸間膜静脈化学療法（IMVC）」を行っています。この方法により抗癌剤を門脈を通じて肝臓に直接届けることで目に見えない微小な肝転移を抑えることが期待されています。</p> <p>本研究では術前治療後に手術を受けた膵癌患者さんを対象に、IMVCが</p>			

	肝転移再発の抑制や生存期間の改善に寄与するかを検討します。特に腫瘍マーカーであるCA19-9の変化に基づきどのような患者さんにIMVCが有効であるかを明らかにすることを目的としています。			
⑨ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2026年5月14日		
⑩ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。 詳細な方法に関しては以下⑬の問合せ先・相談窓口にご連絡ください。			
⑪ 結果の公表	学会や論文等で公表します。個人が特定されることはありません。			
⑫ 個人情報の取扱い	カルテ ID や氏名等の個人情報を研究用 ID に置きかえて使用するため、あなたの個人情報が外部へ漏れることはありません。カルテ ID と研究 ID の対応表は厳重に研究責任者において管理されます。 研究の成果は、学会や学術誌等で公表されますが、この場合も、個人が特定される情報が公開されることはありません。			
⑬ 問合せ先・相談窓口	大阪国際がんセンター 消化器外科 担当者：久保維彦			
	電話	06-6945-1181 (内線 6773)	FAX	06-6945-1900
	Mail	masahiko.kubo@oici.jp		